

お客様紹介

# 有限会社仙龍電設 様

(ISO 9001:2015、ISO 14001:2015認証登録)

〔取材者〕 審査員 美濃 英雄  
Hideo Mino

仙龍電設様は、神奈川県相模原市で、昭和55年創業、平成元年設立の、電気工事業の会社です。2018年にISO9001、ISO14001を認証取得されました。適用人数は3名、少数精鋭の組織です。実際、審査では、同社が、県Aランクで、7年連続、9回の優良工事表彰を受けられていることもわかりました。また、ISOの運用も、従来の書類を活かして、要求事項をカバーする一体型で、ISOのためだけの作業は発生させず、本来業務の中に取り込んで、審査に対応されています。

若手人材不足の昨今、同社でも人材確保のため大手求人情報専門サイトに登録、自社ホームページも作成されました。求人サイト担当者の指導の下、業務内容や、社員の働く姿などの写真を多数掲載されたところ、早速、地元理系大学の新卒見込み者から連絡があったそうです。面接では、「なぜ、当社を希望したのか」という一番の疑問でかつ興味があった志望動機について、「このご時世、通勤ラッシュにもまれて都市圏で働くよりも、地元で自分の力を発揮できる会社でがんばりたい」との言葉が



本社（神奈川県相模原市）

あったとのことで、この春から同社の一員として業務に邁進されています。5月病の心配も感じさせず、日々成長が見られる新入社員の姿に、先輩社員の期待は大きく、「当社で5年ぐらい経験をすれば、どこへ行っても通用する」と金の卵を大事に育てられています。前途有望な社員の方も新たに加わった同社のさらなる発展を期待します。



施工現場風景



現場での新入社員

<https://senryu-densetsu.com/>

連載  
よみもの

## 審査員の心理

第34回（環境編）

### 「コミュニケーション」

環境主任審査員 大村 敏夫  
Toshio Omura

ISO14001では、外部コミュニケーション、特に苦情が発生した場合の対応が重要になります。近隣からの騒音・振動、臭気などの苦情が届くかもしれません。苦情が発生したら、どの部門で受け付けて、どのように対応するかの手順を決めておかなければなりません。苦情への対応については、発信者に説明して納得されたかどうか記録されると良いでしょう。納得が得られなかったら、さらなる取組みが必要な課題となります。

外部コミュニケーションは、苦情のような有害な環境影響に関するものだけではありません。2004年版の規格では「著しい環境側面について外部コミュニケーションを行うかどうかを決定し、・・・」という、やや難解な要求事項がありました。ここでのコミュニケーションとは、規格の付属書A.4.3で、「年次報告書、ニュースレター、ウェブサイト及び地域での会合など

がある。」と例示されているように情報公開のことでした。ISO14001:2015 “7.4.3 外部コミュニケーション”では「コミュニケーションプロセスによって確立したとおりに、かつ、順守義務による要求に従って、・・・外部コミュニケーションを行わなければならない」と表現は変わっていますが、「順守義務」の定義(3.2.9)中に「組織が順守することを選んだその他の要求事項」も含まれ、情報公開についても行うと決めたら順守義務になると解釈できます。情報公開の手段としてCSRレポートなどによる公表もありますが、ウェブサイトやSNSなどを活用しても良いでしょう。

EMSを運用している組織なら、なんらかの情報公開をされることが望まれます。SDGsは2030年をゴールとして策定された世界の目標です。脱炭素目標は、2030年に46%減(2013年度比)、2050年ゼロカーボン(カーボンニュートラル)を世界に約束しています。このような社会の動向も“利害関係者のニーズ・期待(4.2)”と付渡し、組織としてどのように応えていくかを決定し、情報を発信することが望まれます。そのような意識を喚起することも、審査員に課せられた“利害関係者のニーズ・期待”と感じています。